

11がっのくもの子の会だより

日中は、まだ日差しが強く感じられる日 ありますが、秋まただ中
 になってきまけね。

朝晩の冷え込みと日中の気温との差が大きくて体調くずしそうな時期
 ですが、あつくも寒くもないすしやすしいこの秋を 有効に使い、子ども達
 と自然の中で秋を満喫したいですね。

◎ 11月3日(日)に小さな森のこども園の第10回うんどう会があります。
 子ども達のすくすく成長のすがたをみに来て下さい。
 <先月からのつぎ>

コツ⑤ しっかり友だちと遊ばせること

最近、異年齢の子どもたちが集団で熱中して遊ぶ姿を
 ほとんど見かけなくなりました。これは子どもの耐性の発達によって
 大変困ったことです。子どもは、友だちとの遊びをとおして他人の
 欲求があることを知り、友だちに受け入れられ、みんなと楽しく過ごす
 には多少辛いことや、いやなことがあるかもしれませんが、それ
 を体験的に学ぶからです。遊びがなくなった原因としては、幼
 い時からの親によるかま過ぎ、おしゃべり過ぎ、遊び方に対
 する干渉、テレビの見せ過ぎ、そして習いごとの多い遊び時間の減少
 があります。そこで目を輝かせ友だちと元気に遊ぶ子にするには、
 まず、親が遊びの大切さを理解し、子ども同士がふたあひ時間
 と場所を保障し、「～ちゃんたちと遊びなさい」と積極的に
 遊びを奨励することです。なお、遊びには喧嘩やいじめなど



トラブルが付きものですが、軽いものならおおらかに見守るこ
 も大切です。

コツ⑥ 養育態度に一貫性をもつこと

その日の気分によって叱ったり、叱らなからたり、強く叱った
 ものの子どもがしんぼりして泣くを見て逆に慰めたり、家庭内
 の約束として決めてあることでも、子どもがいやがれば許す
 というのでは、子どもは自分に都合のいいように振舞うよう
 になります。当然、かまふべき時にはかまふのできる子に
 はなりません。しつけには一貫性が大切なのです。
 一貫性をもつには、親が正しい子育ての基本、例えば
 安易に物を与えないとか、自分のことは年齢にふさわしく
 させること、叱るときはきちんと叱り、ということを
 しっかり理解し、一貫して実行するという強い意志力が
 必要です。

また、父親と母親で養育態度が一致していることも
 大切です。不一致では子どもは自分に都合のいい
 方に甘えたり、一方の親を軽んじたり、避けてやりするよ
 うになります。結果的にしつけがでずになり、耐性
 が育ちません。

(「かまふ」のできる子を育てる7つのコツ
 より)

